

悔し涙も流した。震えるほどの喜びも味わった。すべてを明日へのチカラに変えて、名古屋から全国へ世界へ、飛躍しようとしているジュニアアスリート達。まさにいま青春と真ん中。彼ら彼女らのスポーツにかける熱き思いをお届けします。

感謝を忘れず、 1本1本集中して練習。 そして、日本一へ!

ふくしま ゆきひさ

福島 幸久 さん

(アルペンスキー・明鏡スキークラブ所属 中学3年生)



プロフィール

●2008年9月4日生まれ。●3歳で初めてスキーを履く

- 小学1年生でクラブに所属し、本格的に競技スキーを始める
- 小学5年生で全国大会出場を決めるも、コロナの影響で中止
- 小学6年生では全国大会出場を決めるも、練習中に骨折し、出場できず
- 中学2年生で常陸宮賜杯中部日本スキー大会4位、全国中学校スキー大会23位
- 現在は愛知県スキー連盟強化指定選手として全国優勝を目指す

——スキーは何歳から始めたのですか?

姉が先に始めていて、気づいたら僕も始めていました。3歳くらいです。

——競技として本格的に取り組むようになったきっかけは?

僕が小学3年生の時、姉がジュニアオリンピックで入賞しました。それを見て、僕もそういうふうになりたいな、と思いました。スキーって、自然というか、雪の上のランダムな場所で、0.01秒を争う競技性がすごくおもしろいと、夢中になっていきました。

——雪上のトレーニングはどんなことを?

基礎練習や、ポールを立てた実践的な練習です。平日は学校がありますから、スキー場で練習できるのは週末だけです。あまり本数を滑ることはできませんし、お金もかかります。感謝を忘れず、1本1本集中して取り組むようにしています。

——1日にどのくらい滑られるものなんですか?

多くて20本くらいでしょうか。

——いま取り組んでいる課題はありますか?

ターンが早く終わってしまうので、スキー板のたわみを上手く使って、加速できるように気をつけています。

——オフシーズンのトレーニングは?

ランニングなどの走り込み、それとウエイトトレーニングを、毎日2時間くらいです。内容は父(コーチ)から時々アドバイスをもらって、参考にしています。

(福島コーチ) 小さいころから黙々とやれる子でした。実は滑れるようになるまであまり教えてないんですよ。今も言わなくても近所を延々と走っていますし、毎日スキー板にワックスを塗っています。

——自分の強みはどんなところだと思いますか?

雪が掘れるとバランスを崩して飛んでしまうことがあるのですが、そこから立て直せるところが自分の良いところだと思います。

(福島コーチ) バランス感覚の良さは小さい頃からですね。スラ



ックラインという綱渡りのような練習をさせたところ、2回目くらいで乗れました。センスなのかな。私は乗れません(笑)。

——直近の目標となる大会はありますか?

来年1月初めにある全国中学校スキー大会の予選です。優勝して1位通過したい。4位まで本大会に出られますが、優勝すると本大会のスタートの順が早くなります。雪が掘れるんで、早くスタートする方が有利なんです。

——なるほど!本大会では……。

もちろん、本大会でも優勝をめざしています。去年は力を出し切れず、とても悔しい思いをしましたから。

——では最後に、将来の目標を教えてください。

目標としているのは湯浅直樹選手です。僕はスラロームが好きで、湯浅選手もスラロームの選手。湯浅選手のように、世界で戦い、世界で活躍できる選手になりたいです。

——コーチであるお父さんからもひと言お願いします。

愛知県には競技スキーの練習ができる場所がありませんが、実はスキーの競技レベルは高いです。全日本中学校スキー大会の優勝者や入賞者を多数輩出しています。幸久の姉の幸歩は2021年のジュニアオリンピックで3位入賞を果たしました。アルペンスキーという競技を少しでも多くの方に知ってほしい。微力ながらそのお手伝いをしたいですね。

—— 私たちも大いに注目したいと思っています。まずは全国中学校スキー大会ですね。本日はありがとうございました。

